

市長見聞録

大和市長 大木 哲

市民の皆さん、こんにちは。
今回は、二つのこととお話したいと思います。

文化創造拠点シリウスの来館者数が 1,000万人を達成

先月、シリウスの累計来館者数が1,000万人を達成いたしました。オープンから約3年3か月での達成は全国でも例がなく、記録的なスピードでの到達となりました。

思い起こすと、シリウスが完成する前の大和市は、同規模の自治体と比較して文化施設の整備水準が低く、旧生涯学習センターは老朽化が著しい状況でした。一般的に、文化芸術に関する予算や施策は優先度が低くなりがちです。しかし私は、先行きが見通せない今のような時代だからこそ、人々に生活の楽しさや生きる喜びを与える文化芸術に力を注いでいくことが極めて重要であると考え、シリウス建設に向けてかじを切る決意をいたしました。

「居心地のよい新たな居場所を提供したい」との思いで設計した施設内は、壁面書架を少なくし、カウンターテーブルを多数設置。また、小さなお子さまを連れた保護者のかたがゆっくりと本を選ぶことができるよう、お子さまを一時的にお預かりする保育室も設けました。

人口約24万人の都市にもかかわらず、開館以来3年連続で300万人のかたにご来館いただいたのは、こうした居心地のよさもあるのではないかと感じており、シリウスが皆さんの「居場所」の一つになれたことを大変うれしく思っています。

昨年、(株)日経BPが全国の自治体を対象に実施した行政視察の受け入れ件数ランキングで、1位と僅差の2位になるなど、シリウスは全国から注目されています。今後もシリウスの魅力である居心地のよさに磨きをかけ、市民の皆さんお一人お一人の居場所として愛され続ける施設となるよう、大切に育ててまいりたいと思います。

認知症の総合相談窓口「認知症灯台」を開設

高齢化の進行に伴い、国内では認知症のかたが年々増加しています。大和市においても、2025年には1万800人まで認知症者数が増加すると予測されています。

将来、多くのかたが認知症の当事者になることが考えられる中、市では認知症の総合相談窓口を今年1月に開設。「どこに相談すべきか迷ったら、まずここを頼りにする」ということを象徴的に表現したいとの思いから「認知症灯台」と名づけました。「認知症灯台」では、専用の電話回線を設置しているほか、窓口看板を設け、認知症に関するあらゆる相談を受け付けています。相談されるかたのそれぞれの状況に応じて、担当課や関係機関などを丁寧にご案内いたしますので、どうぞお気軽にご相談ください。

これからも、市民の皆さんが抱えている認知症に対する不安を和らげ、自分らしく安心して暮らすことができるよう、積極的に取り組んでまいります。

今回は、この辺で…。

春の全国火災予防運動週間

3月1日～7日は春の全国火災予防運動週間です。この機会に、火災予防について考えましょう。

放火されない環境作りを

昨年市内で発生した火災の原因は「放火および放火の疑い」が最多でした。「家の周りに新聞や雑誌など燃え

やすいものを置かない」など放火されない環境作りをしましょう。

住宅火災から命を守るために

3つの習慣▼寝たばこは絶対にしない／ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する／ガスこんろなどのそばを離れるときは、

必ず火を消す

4つの対策▼逃げ遅れを防ぐため、住宅用火災警報器を設置する／寝具やカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する／初期消火のために、住宅用消火器などを備えておく／高齢の人や体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制を作る。

火災予防運動に伴う 主な催し

消防総合訓練▼3月3日(火)午後2時～3時／イルミネーションやまと(中央林間西6-6-28)。

このほか、消防長特別査察や火災予防広報(防火パトロール)などを実施します。

☎市消防本部予防課予防係 ☎(26)05727
FAX(26)0119